

vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィヴオ]

2&3

FEBRUARY/MARCH
2008

CONTENTS

椎名雄一郎オルガン・リサイタル……………	1 ~ 2
ちょっとお昼にクラシック 7……………	2
モーツァルト: ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第2回】……………	3
合唱セミナー 2008 講師:古橋富士雄……………	4
SELF PORTRAIT アルモニア Rosa……………	4
茨城笛の会フルートオーケストラ……………	5
小野智恵ピアノ・リサイタル……………	5
最近の公演から……………	6 ~ 7
インフォメーション……………	8



写真左;野平一郎 / 右上;椎名雄一郎 / 右下;川崎洋介

水戸のオルガンを弾き続けてきた若い才能による渾身のリサイタルです。

3/10(月)椎名雄一郎 オルガン・リサイタル

水戸芸術館では1990年の開館以来、週末にパイプオルガン・ブロムナード・コンサートを開催してきており、通算で1100回を超えています。このコンサートの出演者は、オルガンを専攻する音大生が中心です。ブロムナード・コンサートも19年目を迎え、学生時代に水戸のオルガンを弾きに来ていたオルガニストの何人もが、今や国内外の様々な演奏会やリサイタルを行うような存在になっています。3月に水戸芸術館でリサイタルを開催する椎名雄一郎さんは、こうしたオルガニストの中でもとりわけ高い評価を国内ばかりでなく国際的にも得ている俊英です。

椎名さんが講師を務める東京芸術大学のオルガン科の研究室にお邪魔して、インタビューを行ってきました。どうぞご覧下さい。 《中村》

椎名さんは1994年から水戸芸術館のブロムナード・コンサートなどで水戸のオルガンを弾きに来てくださっています。これまでの水戸での思い出や水戸のオルガンの印象をお話ください。

椎名: 確か最初は94年の5月だったと思います。それからしばらくは、毎月のように弾かせていただいて、とても楽しかったです。夜中の何時までも練習して良いということで、深夜の3時位まで練習させていただいたりしたこともありました。学生時代に、まだ東京芸術大学の奏楽堂のオルガンもなかった時に、ヨーロッパの教会のような残響のある水戸芸術館のオルガンで練習する機会をいただき、本当に有り難かったです。

2003年頃のことですが、留学中たまに日本に帰ってきて、久しぶりに水戸のオルガンを弾かせ

ていただいたら、だんだん建物と馴染んで落ち着いた音になってきているなと思いました。いつもこのオルガンが弾かれているということが大きな原因なのかもしれません。そして、水戸のオルガンは、どんな曲でも弾くことのできるオルガンで、オルガンそのものも良いのですが、オルガンが置かれているエントランスホールの残響が素晴らしいですね。

椎名さんは、芸大卒業後、ウィーンやバーゼルに留学され、その後もヨーロッパ各地で演奏会やCD録音などをしばしばされていますね。ヨーロッパ各地の歴史的オルガンに触れて、どのような事を学びましたか？

椎名: 毎年ヨーロッパで演奏会をやらせていただいております。今年はアムステルダム旧教会のオルガンを弾かせていただきました。やはり優れたオルガンというのは、それを残そうとする人々がいて、長い歴史の中で淘汰されることなく、とても大事にされながら今日に残されてきていると思います。たとえばバッハなど、その当時の作曲家が弾いていた楽器に触れますと、その作曲家の作品について、どういう音で演奏すると一番効果的なのかということが見えてくるんですね。たまたま楽譜に分からない指示が書いてあって、なんでこんなところでこんな音を使うんだろう？と思うことがあるのですが、実際に歴史的なオルガンを弾いてみるとその理由がわかることがあります。たとえばリストやロイプケなどの作品には、そのような必要がない箇所なのに、わざわざ音を小さくするような指示が書かれていることがあります。彼らが使っていたオルガンを実際に弾いてみま

と、鍵盤が重すぎてずっと弾き続けることができなかつたから、ここで音を変えざるを得なかつたのだという理由がわかつたりします。作曲家自身がイメージしたオリジナルに近い状態を体験できるというのは、大きな意義があります。

今回のプログラムのご作成にあたり、どのようなことをお考えになりましたか？

椎名: 水戸のオルガンの様々な音色が一番生かせると思うような作品を選びました。今回は、旧東ドイツを中心に開花した19世紀のロマン派のオルガン音楽をお聴きいただこうと思っております。東西ドイツが統合して十数年が経って、今日、東ドイツ各地の歴史的なオルガンに関する研究が目覚しく進んできています。それらの成果を踏まえ、旧東ドイツのライブツィヒ、ワイマール、エアフルトといった、いわゆるゲーテ街道によって結ばれる19世紀に文化都市として非常に栄えた地域の音楽を中心とするプログラムを組みました。今回の演奏会で扱うバッハ以外の作曲家のほとんどが、かの地でザウアー(ライブツィヒの聖トーマス教会)やラーデガスト(メルセブルク大聖堂)といったロマン派オルガンの名器を弾いてきた人たちです。その歴史的なオルガンの響きを水戸のオルガンで表現できたらと思います。そして、今回取り上げる作曲家は皆、バッハを自らのオルガン音楽の作曲の出発点に置いています。彼らがバッハを乗り越えるべく、どのようなオルガン音楽を生み出していったのか？ロマン派の輝かしいオルガン音楽をお楽しみいただけたらと思います。



写真左; 椎名雄一郎
写真右; 左からヴァディム・セレプラーニー(ピアノ)
川崎洋介(ヴァイオリン)
ヴォルフラム・ケッセル(チェロ)

それぞれの作品について、お教えてください。

椎名: バッハの 幻想曲とフーガ ト短調 は、ドイツの自由奔放な音楽的要素とヴァイオリン音楽に代表されるようなイタリアの音楽的要素が融合された、バッハ中期の頂点に位置する重要な作品であると思います。次のコラール 装いせよ、わが魂よ は、メンデルスゾーンが愛奏した曲で、この曲をメンデルスゾーンがどういう風にレジストレーションを組んだかという記録が残っています。この作品を、ロマン派への架け橋として選びました。

そのメンデルスゾーンですが、実は彼はあまりロマンティックなオルガンは弾いていなくて、G.ジルバーマン(バッハ時代に活躍したオルガン建造家)などのオルガンを愛奏していたそうです。ロマン派のオルガン音楽の先駆けとも言える、古典的な要素とともにオーケストラの響きを模倣したような美しい旋律が出てきたりする、オルガン音楽で

も重要な作曲家です。

リストは、ロマン派の盛期に位置する作曲家です。彼は晩年、修道院に入っていました。そして、オルガンの全集は9冊残っています。これらの作品は近頃その価値が以前にも増して認められてきています。今回演奏するのはリストの内面を映し出す作品で、バッハのテーマをもとに、娘ブランディーヌのわずか26歳での死をきっかけに書かれた作品です。この曲の一番最後に「神のなし給う御業こそ、いとよけれ」というコラールが出てくるのですが、この部分はとても感動的で、リストの神への信仰が見えるような想いがします。

ブラームスもやはりバッハのコラールをよく研究していました。今回演奏する作品は、死の直前に書かれたもので、バッハと同じコラール 装いせよ、わが魂よ をもとに作曲しています。ロマンティックな中にも音型の操作などバッハを意識し

て作った曲だなというのが良くわかる作品です。

ロイプケは、リストの弟子で、お父さんがオルガン建造家です。24歳という若さで、亡くなっています。リスト以上にオルガンを知っている作曲家だったと思います。オルガン・ソナタ 八短調の形式はリストのピアノ・ソナタに見られるのと同じ単一楽章です。

カルク=エーレルトは、ライプツィヒ音楽院の教授を務め、一方でアメリカに演奏旅行に行ったりしています。8つの小品はアメリカの演奏旅行のために書かれた作品で、今回演奏される他の曲とは、一味違う情趣をもっています。時代的にも今回のプログラムの中では一番新しい20世紀初頭に書かれた、彼の代表作のひとつです。

是非、ドイツの19世紀のオルガン音楽を皆様にお楽しみいただけたらと思います。

川崎洋介と仲間たちが、音楽と物語が織りなすイマジネーションの世界へとお連れします

2/29(金) ちょっとお昼にクラシック 7 ことばと音楽の素敵な関係

「ちょっとお昼にクラシック」のシリーズは、平日の午後に開催する1時間のコンサートです。クラシック音楽にはあまり馴染みの無い方々でも気軽にお楽しみいただける親しみやすいプログラムと破格の料金！一方で、クラシック音楽を深く愛する方々にもご満足いただける第一級の演奏家たちの出演！この両方を兼ね備えることで、大きな好評をいただけてきております。

今回は「ことばと音楽の素敵な関係」というタイトルで、ヴァイオリン、チェロ、ピアノという編成でお贈りいたします。出演は、その卓越した音楽的センスと技量により、水戸芸術館専属の水戸室内管弦楽団(MCO)の最も若いヴァイオリン奏者として活躍する、川崎洋介さん。そして、川崎さんが厚い信頼を置く2人のアメリカ人演奏家が登場します。チェロのヴォルフラム・ケッセルさんは、ニューヨークを拠点に、オルフェウス室内管弦楽団の演奏会への参加など、国際的に活動を行っています。ピアノのヴァディム・セレプラーニーさんは、川崎洋介さんと共にベートーヴェンのヴァイオリンとピアノのためのソナタ全曲演奏会を行うなど、川崎さんにとってかけがえのないパートナーという存在です。実はこの3人は、「音楽と絵画」の関係をテーマにした2004年の「ちょっとお昼」シ

リーズの第3回に出演しています。圧巻だったのは最後にシャガールの絵画とともに演奏したショスタコーヴィチのピアノ三重奏曲 第2番の演奏です。第二次大戦中に書かれた、悲痛な情感をもつ作品なのですが、彼らは気迫のこもった感動的な演奏を披露してくれました。

今回のプログラムは、詩や物語などの「ことば」と「音楽」との関係を楽しんでいただこうというテーマとともに贈ります。どのような言葉やお話しが飛び出すのかは当日のお楽しみ！ここでは少しだけ、演奏曲とそれに関連する文学的な素材などを紹介させていただきます。[シェーンベルク: 浄夜 / 他の男の子供を身籠ったと告白するデーメル の詩] [リスト: ペトラルカのソネット 第123番 / イタリア文学の巨匠ペトラルカの名を不滅にした『叙情曲集』のなかの恋の憧れを詠んだソネット(14行の定型詩)] [リムスキー=コルサコフ: 交響組曲 シェエラザード / 『千一夜物語(アラビアン・ナイト)』同作品の語り手の名がシェエラザードです。] [メンデルスゾーン: 無言歌 / タイトルの示す「言葉の無い歌」とはどのようなものでしょう?] [ウェーベルンの2作品 / ウェーベルンは、音を可能な限り切り詰めた音楽を作りました。これに対比されるのは、わが国が誇る、世界

で最も短い詩と言われる ことです。] [スメタナ: ピアノ三重奏曲 作品15 / このピアノ三重奏曲は、スメタナがわずか4歳で亡くなった娘を追悼するために書いた作品です。ときに、音楽はことば以上に雄弁であるのです.....。]

1ドリンク付きで1,200円!! 託児サービスもご用意しておりますので、小さなお子様がいて、なかなかコンサートに行けないというお母様もどうぞお越しください。さらに、館内レストラン「ヴェールブランシェ」のご協力で、チケットをお持ちの方は2月1日から3月30日まで、同レストランのランチもしくはディナーに10%の割引価格でご優待します。是非、こちらでもご利用ください。《中村》

* 託児サービスをご希望の方は、2月8日(金)までに水戸芸術館音楽部門・担当: 中村、中崎宛てにお電話ください(TEL:029-227-8118)。定員20名・料金500円 定員になり次第、締切らせていただきます。お申し込みはお早めどうぞ!!



写真：野平一郎

野平一郎の演奏とご案内でめぐる、モーツァルト：ピアノ・ソナタの旅

3/28(金)モーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第2回】演奏とお話：野平一郎

いよいよ始まった全曲演奏会

今年から始まった全6回のモーツァルト：ピアノ・ソナタ全曲演奏会。1年に2回ずつ、3年をかけて、野平一郎さんの演奏・お話とともにモーツァルトのピアノ・ソナタの創作に迫ろうという企画です。

すでに、チラシ等でご案内いたしましたように、この全曲演奏会は、モーツァルトのピアノ・ソナタという1つのまとまったジャンルを年代順に聴いて行くことで、このジャンルについて深く知るだけでなく、モーツァルトの他のジャンルの作品、人生の歩み、作曲法の変転などについても思いをめぐらせることが出来たら... という願いを込めて企画されたものです。

これを成功させるためには、演奏、そしてお話をどなたにお願いするかが大変重要になります。まず、演奏が第一級でなくてはなりません。そして、「ピアニスト」し過ぎない人。つまり、「作品を聴く」というより、「演奏家の芸を聴く」というニュアンスが強くなるピアニストは、この企画にはふさわしくないのです。また、作品に関係する歴史的・社会的・文化的な背景を深く考察した上で、演奏にあたる人。さらに、作品をアナリーゼし、それを言葉で分かりやすく説明できる人...

このように考えて行くと、私には、我が国を代表する音楽家の一人であり、作曲家兼ピアニストの野平一郎さんしか考えられませんでした。2006年の夏、私は野平さんが館長を務める静岡音楽館で、シューベルト：歌曲集〈冬の旅〉の公開レクチャーを聴講する機会を得ましたが、野平さんのアナリーゼの鋭さに大変感銘を受け、以来〈冬の旅〉の聴き方が変わりました。モーツァルト作品についても、目から鱗が出るようなお話を聞かせてくれるのではないのでしょうか。

ピアニスト・野平一郎

近年、オペラ〈マドルガーダ〉(2005年、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭でケント・ナガノ指揮により初演)、歌曲集〈悲歌集〉(06年、津田ホール委嘱)、チェロのための〈謎〉(06年、ハンブルク・ムジークハレ委嘱)、チェロと管弦楽のための〈響きの連鎖〉(06年、サントリー音楽財団委嘱)などを発表し、日本を代表する世界的作曲家として評価が高まっている野平一郎さんです

が、作曲家としての活動におとらずピアニスト(鍵盤楽器奏者)としてもますます活躍の幅を広げています。例えば、3月20日に静岡音楽館で開催される「野平一郎 plays 平均律クラヴィア曲集」は、あのJ.S. バッハの〈平均律〉を曲によってピアノ、チェンバロ、オルガンという3つの鍵盤楽器で弾き分けるという実に刺激的な試みです。

ここ水戸芸術館でも、野平さんはこれまでに多くの演奏会に登場し、名ピアニストとしての腕前を披露してきました。少し思い出してみましょう。

まずは、水戸室内管弦楽団(MCO)の定期演奏会から。1997年の第30回定期演奏会(指揮：若杉 弘)では、マルタン〈ハープ、チェンバロ、ピアノ、そして2つの弦楽オーケストラのための小協奏交響曲〉でソロを務めました。あの冴えた音色と華麗なテクニクは、いまだに忘れられません。

第41回定期演奏会(2000年、指揮：小澤征爾)では、シュニトケの〈合奏協奏曲〉を演奏。現代音楽のスーパー・グループのひとつ、アンサンブレイティネレルのピアニストを務めた経験を持つ野平さんの本領を聴かせてくれました。

第58回定期演奏会(04年、指揮：小澤征爾)では、バルトークの〈弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽〉にピアニストとして参加。この作品、ピアノの見せ場も非常に多いのですが、マエストロ小澤征爾の躍動感あふれる指揮のもと、野平さんがあらためてこの作品におけるピアノの重要性を知らしめてくれました。大好評発売中の小澤征爾 & MCOによるCD「モーツァルト・シリーズ」第1弾に収録されている作品(モーツァルト〈交響曲第40番K.550〉、〈協奏交響曲K.297B〉)とともに第58回定期で演奏されたバルトークの〈弦チェレ〉、鮮明にご記憶の方も多いことでしょう。

MCOとの共演以外で、まず挙げなければならないのは、毎年恒例の「ニュー・イヤール・コンサート」です。華のあるゲストとともに専属楽団の名奏者たちがずらりとそろったこのコンサートでは、主に伴奏者としてその手腕を発揮しています。先日行われた今年の「ニュー・イヤール」でも、クライスラーのヴァイオリン小品からシューマンの歌曲まで、さまざまなジャンルの作品の伴奏を見事に務めてくれました。また、〈乙女の祈り〉のような、野平さんが他ではめったに弾かないようなレパートリー

が聴けるのも、このコンサートの魅力です。そういえば、2004年には「エリーゼのために」を実に魅力的に弾いて、大喝采を浴びたこともありました。

1991年の「炎の共演」(ヴァイオリニスト天満敦子と共演、企画：間宮芳生)、98年の「竹澤恭子ヴァイオリン・リサイタル」では、タイプは違えど実に個性的なふたりのヴァイオリニストと丁々発止のデュオを聴かせてくれました。両ヴァイオリニストに勝るとも劣らない存在感がとても印象的でした。

また、01年には「野平一郎 + 永野英樹 ピアノ・デュオ」に出演。メシアン〈アーメンの幻影〉、ストラヴィンスキー〈ペトルーシュカ〉、バルトーク〈2台のピアノと打楽器のためのソナタ〉を演奏し、2台ピアノならではの濃密かつスリリングなアンサンブルを聴かせてくれました。

こうして振り返ってみますと、近現代の作品の演奏が多いですね。やはりその世界のスペシャリストです。一方で、複雑きまりない書法が駆使された近現代作品をすばやく読み解き、ずば抜けた能力をもつ野平さんが、天才モーツァルトと相見えたらどうなるのか。きっと新しい世界を見せてくれるはずですよ。

第2回、いよいよ核心部へ

3月28日の【第2回】では、いよいよモーツァルトのピアノ・ソナタ創作の核心部へと迫って行きます。

モーツァルトは、【第1回】と【第2回】の一部でとりあげる1775年に書かれた第1番から第6番までのソナタの後、新しい技術と機構を備えたシュタイン製のピアノと出会い、ピアノ・ソナタの作曲の幅をより一層ひろげていくのです。

その成果が、【第2回】でとりあげられる〈第7番 八長調 K.309〉、〈第8番 二長調 K.311〉、〈第9番 イ短調 K.310〉のいずれも劣らぬ個性を持つ3曲に結実しています()。さらに、通称「きらきら星変奏曲」で広く知られる「ああ、お母さん、あなたに申しませう」による12の変奏曲もあわせてお聴きいただける【第2回】どうぞお楽しみに。

ピアノ・ソナタの番号表記は、新全集の作曲年代順にしたがっています。



写真左;古橋富士雄
写真右;アルモニア Rosa

古橋富士雄氏の合唱指導で、山田耕筰の名曲を味わう

3/16(日)合唱セミナー 2008 講師:古橋富士雄

茨城県合唱連盟、茨城県高等学校教育研究会音楽部との共催により毎年実施している「合唱セミナー」。畑中良輔氏、林光氏、池辺晋一郎氏、新実徳英氏、桑原妙子氏、栗山文昭氏など日本を代表する作曲家、指揮者、合唱指導者を講師に迎え、課題曲を半日かけて練習するという催しです。どこかの団体に所属していなくても、合唱を愛する方ならばどなたでも参加できるセミナーですので、ぜひ会場に足をお運びください。そして一緒に声を合わせて歌いましょう!

■古橋富士雄氏が講師に

今回講師にお迎えしたのは、NHK 全国学校音楽コンクールの審査や歌唱指導でおなじみの古橋富士雄氏です。

古橋富士雄氏と言えば、まず NHK 東京児童合唱団との関わりをご紹介せねばなりません。1962 年以来 40 数年間、同団の常任指揮者を務め、日本を代表する合唱団の一つに育て上げました。68 年「BBC 世界アマチュア合唱コンクール」

82 年「ソルタン・コダーイ生誕 100 周年記念国際合唱コンクール」など数々の国際コンクールで第 1 位を獲得したほか、85 年「第 20 回モービル児童文化賞」、2003 年「日本童謡文化賞」なども受賞しています。

また、1966 年には NHK 東京児童合唱団の卒業生により結成された女声合唱団「東京トルヴェール」の常任指揮者にも就任。70 年、「第 23 回全日本合唱コンクール」一般の部で金賞を受賞しました。

その他、NHK「みんなのコラス」にレギュラー出演したほか、国技館の「5000 人の第九コンサート」では合唱監督として活躍するなど、古橋氏は現代日本の合唱界の指導的立場を担っています(現在の役職も、NHK 東京児童合唱団名誉指揮者、日本合唱指揮者協会理事長など多数)。その古橋氏の指導で歌える貴重な機会です。ぜひふるってご参加ください。

講習曲について

今回の講習曲は、三善晃編曲〈山田耕筰によ

る五つの歌〉から「赤とんぼ」、「待ちぼうけ」、「からたちの花」の 3 曲です。現代日本を代表する作曲家の一人であり、編曲者の三善晃氏が「特に日本語の歌を書いて彼(山田耕筰)の右に出るものはいない」、「詩と音楽が一体となつてすでに日本の風土そのものとなっていると言える」と語る山田耕筰の名歌曲ばかりです。ぜひ一緒に声を合わせて、美しい詩と音楽の世界を味わってください。

なお、ご参加にあたっては、楽譜『山田耕筰による五つの歌 混声合唱とピアノのための』音楽之友社刊 1,260 円 をご用意ください。[ただし、この曲が収録されている『東京放送児童合唱団愛唱歌集 唱歌の四季』(同声合唱版)の楽譜をすでにお持ちの方は、その楽譜を使つての参加も可能。]2 月 9 日には練習がありますので、その練習で事前準備を整えた上でセミナー当日を迎えます。詳しくは、同封の公演チラシをご覧ください。

《関根》

SELF

PORTRAIT

気鋭の女声合唱団が当シリーズ初登場。ラインベルガーのミサ曲や邦人作曲家の合唱曲で美しい響きを披露します。

2/3(日) アルモニア Rosa コンサート

私共アルモニア Rosa は、水戸市内で活動するコールリラとコールエリオの姉妹団体が合同で大人数の合唱の醍醐味を味わいたいとの思いから、2003 年に誕生しました。

初めてのコンサートが水戸芸術館で開催できることは、大変光栄に思うと同時に身の引き締まる思いであります。この度は、日本の合唱界をリードする藤井宏樹氏の客演指揮と氏率いる女声アンサンブル Juri の特別出演をいただきます。10 年来ご指導を受けている藤井先生の指揮で歌いた

いという長年の夢の実現に、大きな喜びと緊張に包まれながら練習に励んでいます。

第 1 ステージは、今から 120 年前の作品で、美しい旋律の宗教曲を沢山残したラインベルガーのミサ曲を私の指揮で演奏します。水戸芸術館のプロムナード・コンサートに度々出演している大平健介氏のオルガンとの共演に、Rosa の新しい世界が広がることを願っています。

第 2 ステージは、藤井氏の指揮で谷川俊太郎が青春時代の苦悩や心情を綴った 5 編の詩に現代を代表する作曲家であり指揮者である松下耕が作曲した「静かな雨の夜に」全曲を演奏します。高度な技術が要求される難曲で、変拍子・高音の発声などに懸命に挑戦しています。藤井氏の棒が必ずや私達の音楽を引き出してくれると期待しております。感性豊かな高い音楽性とテクニックで活躍著しい井上修氏のピアノにもご注目ください。

第 3 ステージは、若さ溢れる女声アンサンブル Juri のアカベラの響きをご堪能いただきたいと思ひます。「日本一の女声アンサンブル」と言われる歌声は国内外で数々の賞に輝き、女声合唱の域

を超越して聴く人の魂をも揺さぶることでしょう。

最終ステージは、新進気鋭の作曲家・信長貴富の「思い出のために」全曲を私の指揮で演奏します。この曲は、最近全国で数多くの女声合唱団に取り上げられている人気のある作品で、私達も楽しんで歌ってきました。寺山修司の詩の光と影を彩る表現が出来ますよう、そしてそれぞれの楽曲の深いメッセージが皆様の心に届きますように、井上氏の小気味よいピアノと共に歌い上げたいと思います。これまでの女声合唱曲とはひと味違った洒落たハーモニーを感じていただけたと思います。

今回のコンサートを開催するにあたり、水戸芸術館のスタッフの皆様そして沢山の方々のお力添えをいただきましたことを心より感謝しております。未熟ではございますが、団員一同心ひとつに精一杯演奏したいと思ひます。どうぞご来場いただきご高覧賜りますようお願いいたします。

アルモニア Rosa 指揮者
小柳 景子



写真左;茨城笛の会フルートオーケストラ
写真右;小野智恵

茨城のフルート奏者が一堂に
会します。

3/9(日) 茨城笛の会 フルートオーケストラ

第28回
日本フルートフェスティバル in 茨城

私ども茨城笛の会は、過去27回のフルートフェスティバルを開催して参りました。初めは「日本フルートフェスティバル in 水戸」として開催しましたが、回を重ねるごとに会員も増え、会場もノバホールやバルティホール等、県内各地に広がり、名称も「日本フルートフェスティバル in 茨城」に変更し、現在に至ります。今回は水戸に戻り、憧れの芸術館で演奏する機会に恵まれました。

フェスティバルでは、フルートの指導者を中心とした茨城笛の会の演奏、一般公募したアマチュアのフルート愛好家との合同演奏、未来を担う小さなフルーティスト達(小・中学生)の演奏に加えて、

開演前の時間を利用した協賛フルートメーカーによるフルートのリペア会、また、普段なかなか手に取って見ることの出来ないフルートもずらりと並び試奏会も同時開催いたします。

さて、フルート吹きばかり雁首をそろえていったい何が出来るか、という話になります。チラシをご覧くださいとお解りかと思いますが、フルートといっても様々な種類がございます。今回使用するフルートを小さい順に(音の高い順)列挙してみましょう。

ピッコロ、ソプラノフルート、コンサートフルート、Bee mode 付きコンサートフルート、アルトフルート、バスフルート、バスフルート in F、コントラバスフルート、ダブルコントラバスフルート

これらのフルート群を駆使して、あたかもオーケストラのような響きを醸し出す(ことができたらいい)のがフルートオーケストラという演奏形態です。

指揮者の青木 明先生は、(茨城笛の会とは第8回から20年のお付き合いですが)フルートオーケストラを提唱し、指揮をとり、自ら編曲も手がけ、レパートリーを開拓し紹介し続けた「フルートオーケストラの父」といっても過言ではない存在です。その青木先生とフルートオーケストラの歴史の中の大きな転機となる事件が、楽器製作者の古

田土 勝市氏(御前山出身、茨城笛の会会員)との出会いです。先に列挙した楽器の多くは古田土氏により開発され、世に送り出されたものです。自らパイプオルガンのパイプを吹いてみてひらめいたという大きなフルートが、作曲家を刺激し、フルートオーケストラの可能性を大きく広げ、数々の名曲が生まれたのです。

このフルートオーケストラのために作曲された曲を中心に今回のプログラムを構成しました。林光、池辺晋一郎、中川いづみ、廣瀬量平という邦人作曲家の作品とレスピーギ作品を演奏します。どうぞ、フルートオーケストラの世界へお越し下さい。

「第28回日本フルートフェスティバル in 茨城」
実行委員長 後藤 晴美

フランスで研鑽を積んだピアニスト・小野智恵による、モーツァルトとフランス近・現代音楽の夕べ。

3/22(土) 小野 智恵 ピアノ・リサイタル

~モーツァルトの幻想と
フランス印象派、現代音楽の世界~

水戸に来てもうすぐ2年となりますが、この度、水戸芸術館にてソロリサイタルをさせていただくこととなりました。今回は「モーツァルトの幻想とフランス印象派、現代音楽の世界」と題してモーツァルト、ジョリヴェ、ラヴェル、そしてドビュッシーの作品を演奏いたします。後者3人はフランス人ですが、モーツァルトも演奏旅行を通して、バロック期にフランス宮廷で芽生えたロココ様式の影響を受けているのです。フランスの首都パリには、ルーヴルやオルセーをはじめとするたくさ

んの美術館やオペラ劇場があり、まさに芸術の都です。私はパリに3年ほど滞在する機会がありましたが、演奏会やオペラ鑑賞は勿論のこと、美術館に通っては、作曲家たちがインスピレーションを得たとされる絵画をみて大いに刺激を受けました。

ここで今回演奏する曲目を演奏順にご紹介いたします。最初はモーツァルトの 幻想曲 K.397 です。初版は97小節で作曲が中断されており、その後ミューラーによって10小節が補足されて現在の形になりました。オペラのアリアや宗教心を感じる名作です。

次は、フランス現代作曲家ジョリヴェの作品から 婚礼のダンス、誘拐のダンス をお届けします。これらは 5つの典礼舞曲 からの2曲で、変則的な拍子やリズムを取り入れた革新的な曲です。

続いてラヴェルの作品からの2曲を演奏します。1曲目の 亡き王女のためのパヴァーヌ は、ゆったりとした中にも憂いと上品さを兼ね備えた作品です。2曲目の 道化師の朝の歌 は、スペイン風のギターやカステネットの音色を取り入れた辛辣な舞曲です。

最後に印象主義を確立した20世紀音楽の開

拓者とも言われるドビュッシーの作品から 前奏曲集第2巻 より数曲を演奏します。風や水、霧の描写そして魅惑的な妖精たちや物語上の滑稽な登場人物達が巧緻な色彩で描かれており、独特で意外性に満ちています。

以上のようにフランスで影響を受けた4人の著名な作曲家をとりあげ、彼らが活躍した古典派、近代(印象派)・現代の各時代の音楽を、多くの方々に楽しんでいただきたいと思います。同時にフランスで出会った素晴らしい音楽、恩師との出会いの中で得た感動を少しでもお伝えできれば光栄です。会場でお会いできるのを楽しみにしております。

小野智恵

最近の公演から

November
December



1



2



3



4



5



6



7



8

水戸室内管弦楽団 第70回定期演奏会 (11月10日、11日)

長くドイツのバッハ演奏の中心的存在として活躍してきたヘルムート・ヴィンシャーマンを迎えてのバッハ・プログラム。巨匠は、長旅の疲れも見せず、バッハへの愛を全身で表しながらリハーサルに臨んだ。その熱意は深く浸透し、演奏者たちは献身的に音楽に取り組んだ。今回は ブランデンブルク協奏曲 第5番 の独奏者としてヴァイオリン独奏を務めるMCOメンバーの潮田益子に加え、チェンバロのクリスティーネ・ショルンスハイム、フルートのフェリックス・レングリという、新しい演奏の潮流に身を置く2人がゲストで加わっている。ヴィンシャーマンの音楽は現代の多様なスタイルも柔軟に取り込む、大らかで深い愛に満たされていた。自身が編曲した ゴルトベルク変奏曲 の室内管弦楽版は、変奏ごとに編成のかわる色彩豊かな編曲であり、最後の変奏に引用される民謡を歌った盛岡バッハ・カンタータ・フェラインの合唱も華を添えた。そして、雄大な管弦楽組曲 第3番。深い感動に包まれた満場の聴衆の熱烈な拍手に応え、巨匠はアンコールに自らの編曲による 主よ、人の望みの喜びよ を指揮した。11月8日には茨城県武道館で「子どものための音楽会」を実施。水戸市内の約2200人の小学生が集まった。巨匠は開演前から客席の子どもたちと楽しそうに遊び、そして新しい世代への希望をこめて ゴルトベルク変奏曲 や 管弦楽組曲 第3番 の抜粋を指揮した。《矢澤》

アンケートから ヴィンシャーマンの大きな手のひらで導かれる一音一音がまさにバッハそのもの(水戸市:T.M.さん) 整えられた美しさのブランデンブルク協奏曲(那珂市:Y.T.さん) ゴルトベルクは発見でした。(中略)これが本来の響きかと思えるほど(東京都:K.M.さん) これぞバッハの Tonenspreche(編集部註:音話)と聴くことができ伝統に触れられた貴重な経験になりました(入間市:T.K.さん) (管弦楽組曲第3番の)エアは本当に感激でした(無記名の方) 合唱付の 主よ、人の望みの喜びよ を聴けるとは大感激!(神戸市:S.T.さん) ヴィンシャーマンさん、87才になられるんですか。チャーミングな方、とてもおちゃめな指揮と演奏でした。うきうきしました(水戸市:Kさん) 観客のマナーも良く、気持ちよく鑑賞できました(神奈川県:無記名の方) 新幹線で来水の価値あり(伊勢崎市:T.I.さん) 今、私はとっても幸せなんだと思います。この演奏に関する全ての人に心より感謝致します(M.N.さん)

水戸室内管弦楽団 第71回定期演奏会 (11月24日、25日)

第70回のオール・バッハから一転、フランスの名匠ジャン＝フランソワ・バイヤールを迎え、フランス音楽の色彩と香りを心ゆくまで味わう演奏会となった第71回定期、いかがでしたでしょうか。アンケートを拝見すると「めずらしい曲を聴けて良かった」との感想多しで確かにドビュッシー 牧神の午後への前奏曲 以外、さほど知られていない作品がプログラムを飾りました。メンバーにとっても初めての曲が多かったようで、いつもとは一味違った緊張感がありました。特に、弦楽合奏の高い技術と精度が要求されるシュミット ジャニアナ は大変で、リハーサル後「良く出来たから、明日はこの曲の練習はしなくても良いだろう」と語るマエストロに、コンマスの安芸晶子をはじめとするメンバーたちが「いやいや、明日も練習したい」と熱心にマエストロに要求している姿が印象的でした。22日のリハーサルは友の会会員の方々にも公開。音楽がどのように形作られていくのか、練習のひとつまごをいただきました。アンコール曲は両日もピゼー(ギロー編曲) アルルの女 第2組曲からメヌエット。 《関根》

アンケートから 前回のドイツ的厚重に対し、今回はフランスの軽妙さが際立って対照的だったと思う。全体的に非常に色彩に富んだオーケストレーションで「管弦楽入門」的楽しみを味わえた。(水戸市:T.M.さん) バイヤールさんの指揮と水戸室内管弦楽団のすばらしい演奏、ピゼーの アルルの女 には体がゆるんでしまいました。ありがとうございました。フランス音楽のすばらしさを実感しました。(柏市:S.I.さん) 斬新。アルルの女 は通常版とまったく異なる印象を残してくれた。曲のイメージがつかなくなって、選曲もよく考えられていた。(台東区:M.K.さん) すごく良かったです。普段、あまり聴くことがない曲目でしたので、飽きずに聴きました。(水戸市:M.S.さん) アルルの女 のオリジナル版など、普段演奏機会の非常に少ない楽曲を耳にすることが出来て、とても良かった。(那珂郡:S.I.さん) 本月初めて水戸芸術館へ来て、MCOを聴きました。素晴らしい音楽体験でした。もし近隣に住んでいて、しばしばこのような音楽会に接することが出来れば、どんなにか幸せなことだろうと思わせられました。(横浜市:F.I.さん)

高校生音楽講座 in 水戸芸術館 2007 第5回(11月1日)

「作曲家は書き直す—原典版と改訂版」のタイトルのもと、水戸室内管弦楽団第71回定期演奏会でとりあげられたピゼー アルルの女 の「編曲」過程の話を中心に、楽曲が唯一普遍ではなく、作曲家や周囲の状況によってダイナミックに変化する

1 ~ 3. 水戸室内管弦楽団第70回定期演奏会
4 ~ 5. 子どものための音楽会
6 ~ 8. 水戸室内管弦楽団第71回定期演奏会



1

るものであることを考えた。バッハ、ブルックナーの曲も登場。

詳細な内容は担当者のブログ <http://www.arttowermito.or.jp/blog/yazawa/20071102.html> をご覧ください。



2

佐藤 篤 ピアノ・リサイタル（12月1日）

茨城大学教育学部音楽科主任教授を務め、茨城演奏家連盟の会長を務めるピアニスト、佐藤篤氏のリサイタル。今回は、氏が近年熱意をもって取り組んでいるリサイタル・シリーズ「同世代を生きた作曲家達」(全6回)の5回目として、「二人の印象派作家とショパンのとても二等辺な三角形」のタイトルのもとプログラムが組まれた。ラヴェルの 高雅にして感傷的なワルツ 逝ける王女の為のパヴァーヌ ではじまり、ショパン 3曲(ソナタ第3番より 葬送行進曲、夜想曲 嬰へ短調 作品48の2、マズルカ 口短調 作品33の4)をはさんで後半はドビュッシー 前奏曲集第1集 という意欲的なプログラミングである。熱演をくり広げた氏がアンコールに弾いたのは、ショパン:前奏曲 変二長調 作品28の15 雨だれと夜想曲 口長調 作品32の1の2曲。 《矢澤



3



4

アンケートから 熱演で良かった(石岡市:T.K.さん) 感動しました。ショパン ラベル ドビュッシーのよさをあらためて感じました(無記名の方)



5

アートタワーみとスターライトファンタジー

第12回クリスマス・コンサート[市内小中学校 芸術館コンサート](12月9日)

水戸芸術館や水戸駅前などをライトアップする水戸の冬の風物詩が、アートタワーみとスターライトファンタジー。同イベントの一環として、水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を披露するのが「クリスマス・コンサート[市内小中学校芸術館コンサート]」です。今年も吹奏楽、金管合奏、合唱、ミュージックベルなど18校、23団体、およそ750人の生徒さんが出演しました。



6



7

水戸の街に響け! 300人の《第九》

(12月16日)

すっかり水戸の年末の風物詩となったこの企画。「これを歌わないと年が越せない」という参加者の方々からの声、そして「この歌声を聴いて毎年勇気付けられる」という観客の皆様からの声が年々大きくなっていることは、大変嬉しいことです。



8

今年は、一般公募214名、茨城県合唱連盟99名、合計313名の方々コーラスに参加しました。9月から月に2回、指揮者の鈴木良朝氏をはじめ



9

とする指導の先生方のあたたかくも厳しい指導を受け、立派な《第九》合唱団に成長。本番では、真冬の晴天に恵まれた芸術館の広場で、見事に練習の成果を発揮し、高らかな歌声を水戸の街に響かせました。

「茨城の名手・名歌手たち」出身者を中心に選ばれた独唱(結城滋子、大木円、寺田宗永、小橋琢水)が演奏に華を添えてくれました。また、エレクトーン2台、ピアノ2台、ティンパコという水戸芸術館オリジナル編成の器楽合奏(小林由佳、久保田彩子、中村真由美、中村佳代、尾花草子)が合唱と独唱を力強く支えてくれました。

演奏会の最後は、のべ2800人の観衆の皆様とよるこびの歌を唱和し、暗い話題が絶えないこの世界に、ベートーヴェンがこの作品に込めた希望と友愛のハーモニーが響くことを願いました。

《関根》

クリスマス・プレゼント・コンサート2007

(12月23日)

畑中良輔氏の企画・進行により、全5ステージでお贈りした今回のクリスマス・コンサート。ソプラノ歌手・小濱妙美さんとテノール歌手・村越大春さんが、厳かな宗教曲から華麗なオペラ・アリアまで、歌の魅力を余すことなく伝えてくれました。第2ステージでは、プッチーニの歌劇 ラ・ボエームの名場面をお楽しみいただきました。ピアノ伴奏はクリスマス・コンサートでお馴染みの谷池重紬子さん。そして、ハーブの千田悦子さんが、グノーやマスカーニの アヴェ・マリア を伴奏しました。最後のステージでは、水戸のコーラスの名門・水戸第二高等学校コーラス部とそのOGによる「ブリテン：キャロルの祭典」。寺門芳子先生の厳しくも愛情のこもった指導の下、二高生たちの演奏は本当に立派なもので、企画者の畑中良輔氏も賞賛の声を上げていました。終演後は、引き続き二高生たちによって、エントランスホールでクリスマス・キャロルの合唱が行われました。オルガン伴奏は石丸由佳さん。 《中村》

アンケートから 声楽曲に接する機会がこれまでほとんどなかったので、よい機会となりました。身近で聴くソプラノ、テノールの素晴らしさを再認識できました(無記名の方) とてもすばらしく、楽しい内容でした。本格的な音楽を畑中さんのお話ですこし気軽に親しみをもって聴くことができました。二高生のコーラスは本当に素晴らしかったです。(小美玉市:Y.M.さん) 小濱さんのオペラ・アリアが聴け、最高に幸せです。村越さんもすばらしいテノールです。谷池さんのピアノはオーケストラに負けない程の迫力でした。オペラの舞台仕立ての企画、新鮮でした。水戸二高のコーラスは英国の礼拝堂クワイヤーを聴いているように澄んだ声、すばらしいです。(水戸市:K.I.さん)

- 1 ~ 2. 佐藤 篤 ピアノ・リサイタル
- 3 ~ 4. アートタワーみとスターライトファンタジー
- 5 ~ 6. 水戸の街に響け! 300人の《第九》
- 7 ~ 9. クリスマス・プレゼント・コンサート

information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000

営業時間/9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門/029-227-8118

【ATM 便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM 水戸「芸術よもやま話」金曜日18:15頃から15分ほど。

水戸周辺 83.2 MHz、日立周辺 84.2 MHz。

茨城放送「タッチ・ミー・イン・ザ・モーニング」内「タッチ・ザ・クラシック」

毎週水曜日・朝 6:50 頃から約10分間

水戸周辺 1197 KHz、土浦周辺 1458 KHz

「茨城の名手・名歌手たち 第19回」出演者オーディション

10月4日(土)に開催予定の演奏会に先立ち、出演者オーディションを行います。詳細は、応募要項をご覧ください。

開催日:2008年4月27日(日)

応募受付期間:2008年3月25日(火)~4月1日(火)

審査対象部門:鍵盤楽器・弦楽器・邦楽器(以上、ソロ)

邦楽アンサンブル(2~5人まで)

資料請求方法:住所・氏名を明記し80円切手を貼った返信用封筒(定形)と、受験する楽器(編成)を書いたメモを同封の上、下記までお送りください。直接ご来館の場合は、エントランスホール・チケットカウンター(9:30~18:00/月曜休館)にお申し出下さい。

お問い合わせ先:〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

水戸芸術館音楽部門「茨城の名手・名歌手たち」係
(担当:関根・中崎)

水戸芸術館では、来館者の案内・誘導などを行う臨時職員:
ATMフェイスを募集します。

応募資格/平成20年4月1日現在で満20歳以上の水戸市内及び近隣市町村に居住する、土・日・祝日の勤務が可能な方(学生は不可)

賃金/時給800円・交通費別途支給 採用日/3月1日

詳しくは、水戸芸術館総務係(TEL029-227-8111)までお問い合わせください。

チケット・インフォメーション 2月2日(土)発売分

兼氏規雄クラリネット室内楽演奏会

4/29(火・祝)14:00 開演 料金(全席指定):¥3,000

ブルーノ・レオナルド・ゲルバー ピアノ・リサイタル

5/10(土)18:30 開演 料金(全席指定):¥4,000

シリーズ「ベートーヴェンは生きている」関連企画

映画『ノスタルジア』特別上映 会場:水戸芸術館 ACM 劇場

4/12(土)14:00 ~ 料金(全席自由):¥1,000

ブルーノ・レオナルド・ゲルバーのチケットと一緒に購入すると¥200引き

これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) ×...残席なし
中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

女声合唱団 アルモニア Rosa コンサート.....2/3(日)自由席

ちよっとお昼にクラシック7.....2/29(金)中央×、左右

茨城笛の会 フルーツオーケストラ.....3/9(日)自由席

椎名雄一郎 オルガン・リサイタル.....3/10(月)1F、2F ×

合唱セミナー2008.....3/16(日)自由席

小野智恵 ピアノ・リサイタル.....3/22(土)自由席

モーツァルト:
ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第2回】...3/28(金)中央×、左右・裏

1/8(火)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお

得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証 記名章 をお持ちください。

公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な2・3月のスケジュール

コンサートホール ATM

女声合唱団 アルモニア Rosa コンサート

2/3(日)14:00 開演 料金(全席自由)一般¥2,000 学生(高校生以下)¥1,000

第6回大手橋プラムコンサート 2/17(日)13:00 開演 入場無料

水戸市立双葉台小学校スクールバンド部演奏会

2/24(日)14:00 開演 入場無料

ちよっとお昼にクラシック7 ことばと音楽の素敵な関係

2/29(金)13:30 開演 料金(全席指定):¥1,200(ドリンク付)

第28回 日本フルートフェスティバル in 茨城(茨城笛の会フルートオーケストラ)

3/9(日)14:00 開演

料金(全席自由):一般[前売り]¥1,800 [当日]¥2,000 高校生以下¥500

合唱セミナー2008 講師:古橋富士雄 3/16(日)10:00 開始

参加費(全席自由):一般¥1,000 高校生¥500 中学生以下¥300

小野智恵 ピアノ・リサイタル

3/22(土)18:00 開演 料金(全席自由)[前売り]一般¥2,000

高校生以下¥1,000 [当日]一般¥2,500 高校生以下¥1,200

モーツァルト:ピアノ・ソナタ全曲演奏会【第2回】演奏とお話:野平一郎

3/28(金)18:30 開演 料金(全席指定):1回券¥2,500

水戸市立笠原小学校金管バンド部演奏会 3/30(日)14:00 開演 入場無料

エントランスホール

パイプオルガン ブロムナード・コンサート

2月:2日(土)・23日(土) 3月:未定

開演時間:12:00/13:30(2回公演) 入場無料 演奏は毎回20分程度です。

椎名雄一郎オルガン・リサイタル

3/10(月)18:30 開演 料金(全席指定):A席¥2,500 B席¥2,000

おことども教室発表会 3/15(土)10:00 開演 入場無料

ACM 劇場

ACM 劇場プロデュース公演 『12 ライアーズ 評決者たち』

2/1(金)19:00 開演、2/2(土)19:00 開演、2/3(日)14:00 開演

料金(全席指定):一般¥3,000 団体(10名以上)¥2,700 学生¥2,000

友の会一般会員¥2,000

優秀映画鑑賞推進事業 日本映画が好き2008

2/9(土)「浮雲」 「おかあさん」 2/10(日)「乱れ雲」 「めし」

第22回 水戸映画祭

2/9(土)「殞の森」 「恋するマドリ」 2/10(日)「特集 山村浩二アニメーション」

「アフター・ウェディング」 2/11(月・祝)「おやすみ、クマちゃん」 「雪の女王」

「アヒルと鴨のコインロッカー」

時間・料金等詳細は、水戸芸術館広報係(TEL029-227-8111)までお問い合わせください。

萬狂言水戸公演

2/24(日)16:00 開演 料金(全席指定):S席¥4,000 A席¥3,000 B席¥2,000

団体(10名以上/S席のみ)¥3,600

水戸市民舞踊学校修了公演『アリスと迷宮』

3/15(土)19:00 開演、3/16(日)14:00 開演 料金(全席自由):¥1,500

水戸子供演劇アカデミー卒業公演『星の下、青い夜の王国』

3/29(土)14:00 開演 /19:00 開演、3/30(日)14:00 開演

料金(全席指定):大人¥1,000 小人(中学生以下)¥500

現代美術センター

宮島達男 | Art in You

2/16(土)~5/11(日)9:30~18:00(入場は17:30まで) 休館日:月曜日

料金:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600

中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

茨城の主な2・3月の演奏会

有料公演のみ

ページの都合により水戸市内の公演のみとさせていただきます。

佐川文庫 TEL/029(309)5020

佐藤美枝子 ソプラノ・リサイタル 2/16(土)18:00 開演

パヴェル・シュタイドル ギター・リサイタル 3/4(火)18:30 開演

常陽藝文センター TEL/029(231)6611

茨城演奏家連盟 第10回定期演奏会 2/2(土)14:00 開演

(問)茨城演奏家連盟事務局(河合楽器水戸店内) TEL/029(252)2755

スタッツオーケストラ20周年記念コンサート

2/10(日)18:30 開演 (問)小塚 TEL/090-4055-9881

小松英典 リサイタル 名バリトン歌手をお招きして

3/1(土)17:00 開演 (問)小柳 TEL/029(227)3630

茨城県民文化センター TEL/029(241)1166

宗次郎オカリナコンサート 土の笛のアヴェ・マリア 3/1(土)16:30 開演

水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴォ】2008年1月発行 第131号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):佐川真美 関根哲也 中崎美智代 中村 晃

矢澤孝樹(編集長)

DTP/村田征司(有限会社アートワークス)

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は...

今年の水戸芸術館はベートーヴェン!